

会議の名称	平成20年度第4回 鳥海地域協議会
開催日時	平成21年3月24日(火) 午後3時
開催場所	由利本荘市鳥海総合支所 講堂
出席者氏名	「出席者名簿」のとおり
欠席者氏名	(次葉 取消線のもの)
(会議次第) 1. あいさつ 鳥海地域協議会会長 理 事 2. 協議事項 (1)学校環境適正化計画について(教育委員会) (2)今後の地域協議会について ①今後の地域協議会の持っていく方 ②委員の数・任期 (3)その他 ①平成21年度市予算の概要について(各課) ②地域活性化・生活対策臨時交付金事業について ③定住自立圏構想について ④定額給付金給付事業・子育て応援特別手当について ⑤総合支所各課連絡事項 3. 総 括 鳥海総合支所長	
会議の経過	別紙のとおり

◆出席者名簿

(委員30名)

[illegible]

(会議の経過)	
第4回 鳥海地域協議会	
平成21年3月24日(火) 午後3時 開会	
	(開会) (資料確認・説明)
清水振興課長	「ただ今より、平成20年度第4回鳥海地域協議会を開会いたします。はじめに、松田鳥海地域協議会長よりご挨拶申し上げます。」
松田会長	「今年度の4回目の会議でありますけれども、ある意味では4年間の総括の会議であり、私どもの任期もこれで終わるという最終の会議であります。年度末のお忙しいところご出席いただきましてありがとうございます。本日は教育委員会から須田次長さんを始め3名の方々がお見えになっております。後ほどご説明をいただく事になって今年になってから由利高原鉄道フォーラムとか、公共交通関係の会議、更に由利組合病院の運営協議会等の案内をいただいて出席しておりますけれども、実は今、どこに向かっても大変な世の中だという事ですけれども、どの会も非常に厳しい時代を迎えているという事でございます。やはりこういう時こそ、みんなで知恵を出し合いながら切り抜けなければならないんじゃないかなと思います。これも協議会を通して皆さんから意見を賜りながら、それを上に上げて、少しでも地域の生活が良くなればと感じた次第であります。今日は議員さんにも出席していただき、ありがとうございました。それでは、よろしくお願いします。」
清水振興課長	「佐々木理事よりご挨拶申し上げます。」
佐々木理事	「佐々木でございます。本日は第4回目の地域協議会を開催していただいて、ありがとうございました。今日は3月24日、4年前の平成17年3月22日に合併しまして、4年と2日経ちました。その時、由利本荘市地域自治区を設置する条例が専決処分されました。その後7月に各地域協議会の委員を委嘱しながら、今日まで各地域や由利本荘市全体の課題について協議、検討いただきました事に対して御礼を申し上げる次第であります。3月定例会が終わり、平成21年度予算が可決、成立しております。去年、今年の景気の低迷に対し、どのように自治体がやっていくのか、例えば21年度にやるべき事業を20年度に前倒しして仕事をやってしまう。あるいは地域活性化・生活対策臨時交付金、こういうものを使いまして、いくらかでも地域経済の刺激策をやろうという事で気になっているところであります。地域活性化・生活対策臨時交付金、10何年か前、国は景気刺激策として公共インフラをやりなさいという事で、地域総合整備事業債等の起債で仕事をやって、ある程度景気を刺激しようという事をやった事があります。それは結局借金をする訳ですから、後々の元金償還が生じてきます。結果的にそれが地方債の残高が飛躍的に増えた。今回の場合は借金でなくキャッシュでという事であります。地域活性化・生活対策臨時交付金は全国で大体6000億、由利本荘市では10億4千万、これまでやりたくてもやれなかった事業に全部使いなさいと。職員の人件費や貯金はダメで、とにかく全部使いなさいと。定住自立圏のボーナス付きで大体12億くらい。これであれば借金残りませんから、今年だけとは言わず来年も再来年も10億円くらいくれればいい仕事出来るのになぁと思いますが、とりあえず20年度の補正でついたもの、加えて21年度、新年度予算の補正という事で雇用対策費、これに2億5千万くらいつきます。そんな訳で様々な地域活性化、雇用

対策という事で取り組んでおりますけれども、この事によっていくらかでも地域経済が上向きになってくれればいいなあと思っているところであります。定額給付金も始まりました。由利本荘市全体で大体１３億くらいでありまして、昨日から受付を開始しております。多分皆様方にも申請書が送られたと思いますけれども、私のうちは５万６千円でありました。この申請には通帳のコピーを付けろという事な訳です。通帳のコピーを付けなくても、口座振込ですから間違いなく口座番号を書けばいいのではないかと行ったんですけれども、国の指導だからという事で。例えば老人世帯で近くにコンビニがある訳でもない世帯は、わざわざバスに乗ってバス賃をかけてコピーを取りに行って封筒に入れて郵送するのか、そんな面倒な話はないだろうと担当者とやりとりしました。間違いなく記入すれば問題ないでしょうけれども、国は国で何かの間違いやトラブルがあったらまずいという事でそういう事になったんでしょうけれども、そういう訳で皆様方に少し面倒な手続きをお願いする訳なんですけれども、この１３億円を市内で有効に活用いただきまして、金がうまく循環すればいいなと思っているところであります。今日は最後の地域協議会ですけれども、どうぞご協力くださいますようお願いいたします。」

清水振興課長

「続いて会議に入らせていただきますが、会議の議長は条例第９条第４項の規定により会長が努めます。」

議長

「それでは、最初の協議事項である学校環境適正化計画について教育委員会からお話いただきます。それでは、ご説明をお願いします。」

教育委員会

(学校環境適正化計画について説明)

A委員

「耐震について、去年は岩手や宮城が局地的に大変な被害を受けました。地震はいつ来るか分からない。説明では危険な学校が１３校ある、にもかかわらず５年や６年の時間をかけて改修していくと、私はそんな悠長な事言ってもらえない話じゃないかなと思います。予算等の問題もあると思いますが、やらなければならない事はお金があれば借りてでも急いでやるというのが基本的な事じゃないかなと思います。こういう命に関わる事は速やかにやらなければならない事を強くお願いしたい。建設関係は今、不景気で仕事が無くて大変な時代ですから、そういった方々のためにも非常にいい機会になると思いますのでやっていただきたい。そういう方策は無いものかなと思いますが、どうなんですか。」

石川教育総務課長

「Aさんのおっしゃられる通り、地震はいつ来るか分からないという事で、出来るだけ早めに耐震対策を図る必要があるという認識であります。財政的な面もありますけれども、物理的な面もありまして、１３校の中でもやはり一斉に１３校を耐震対策なり補強なりをとりましますと、現実的になかなか難しいものですから、この優先度調査に基づいた形の中で年次計画の中で実施してまいりたいと考えているところであります。鳥海地域につきましては耐震、それから複式学級の関係もございまして、今後早期に建築したいという計画を盛り込んでおります。これにつきましては、この計画の中では平成２１年度から平成２４年度までという事で、この計画通りにいきましても平成２５年４月にならないと子供達は新しい学校に入れないという事になる訳でございまして。ただし、これにつきましては出来るだけ早めに建築したいという事で考えておりますけれども、建設にあたりましては場所の決定ですとか色々な問題がございまして、地元の方々のご意見、或いはご協力をいただきながらでないに進まない部分がありますので、そういった意味では出来るだけ早めに建設検討委員会を立ち上げ、統合を行いながら実施してまいりたいと考えております。」

須田教育次長	「補足で説明させていただきます。診断して補強という順番になる訳ですが、診断して結果が出るまで約１年かかります。それに基づいて設計を組んで補強する訳なんですけれども、その補強をする時も、学校が空いていて別の棟で授業が出来ればいい訳ですが、出来ない場合はなるべく日曜とか夏休みとかの期間を利用して工事を進めるという関係もございまして、一気に出来ないところが私達としましても悩みと言いますか。新山小学校も補強が出来るまでに４年を要するというのも、そういった事からくるものでございまして、他の学校でも最低２年はかかると見ております。」
A 委員	「人間の体でもなんでもそうでしょうけれども、診断をして結果が出るまで１年かかるというのはどういう理屈なものか。さっと見ただけでひびが入っているだとか、外から見ても危ない所が分かる所は分かると思います。この時間のかけ方は世間の常識から言っても異常じゃないですか？」
石川教育総務課長	「耐震の第２次診断の関係の事ですけれども、実際どういった作業をするのかと言いますと、建物の図面だとか構造的な部分を確認すると同時に、コンクリートの強度も確認しなければいけないものですから、コア抜きという形でコンクリートを何力所か抜きます。それらを持ち帰ってコンクリートの強度ですとか、建物の構造的な部分でも耐震性を出しまして、業者さんの方で出したものを更に耐震の判定委員会というのが各県にありますけれども、その判定委員会にかけて最終的に耐震２次診断による耐震性が出てくるという流れになるものですから、どうしても時間がかかってしまうという事になります。」
A 委員	「やる気になれば委員会だってなんだって、そんなに時間がかかる事じゃないんじゃないですか？」
議長	「財政の問題が絡んできますので、佐々木理事さんいかがですか。」
佐々木理事	「必要な事はやらなければならないし、前倒しという事も十分考えられる訳で、財政的にはクリア出来る部分はクリア出来ると思います。問題はどこに建てるかとか、地権者の問題だとか…」
A 委員	「学校を建てる話ではなくて、耐震の話を今している訳ですよ。」
石川教育総務課長	「耐震診断、補強の事でありますけれども、新山小学校と鶴舞小学校、診断が３年、補強が翌年からやるものですから補強も３年かかるという事で、診断から補強が終わるまで４年を見込んでいます。これはいわゆる耐震補強の工事と言いますが、窓枠を全部外しまして、中にブレスという金属で箱形に組んだ枠の中にＶ字に補強されたような物をはめ込むという事で、かなりの音と振動を伴う関係で、当然生徒さん達が授業している時には出来ないという事であります。その間、例えば空き教室があって、そちらの方に移ればいいんですけれども、そういった事もありまして、大きな学校のなりますとどうしても耐震補強するのに複数年を要するという事でございます。今年度新山小学校と鶴舞小学校の耐震診断を行いました。これに基づいた補強を来年度行う訳なんですけれども、どうしてもコースが分かれておりますので一斉には出来ないというのが現状でございます。ですが、出来るだけ学校の方からもご協力いただきながら、音や振動が生じる部分の工事は夏休み中を利用しながら行いたいと考えておりますのでよろしくお願いいたします。」
議長	「川内小学校が優先度調査で①となっているものだから心配するのも分かりま

	す。私も平成３年に川内小学校のリフォームに立ち会った時は非常に頑丈だと、基礎的な所は体育館以外は特に手を加えなくて良かったんです。川内小学校の特徴は一教室一教室みんな壁で区切っているんです。耐震は壁が一番大きい役割を果たすので、あの当時設計屋がリフォームするために来てくれて打診をした訳だけれども、壁が多いから極端な直下型の大地震が来れば別だが、一般的にはそう心配はないだろうというので、その時点でリフォームしてあったんだけれども。心配すればきりが無いが、耐震に金をかけても仮だからあまり良くならないだろうし、新しい学校の早期建設をお願いするしかないと思いますけれども。」
A 委員	「私が聞きたいのは、完璧に診断して建物全体を直すという考え方はあるでしょうけれども、我々の体もそうですが、検査をすれば、あっちも悪い、こっちも悪いという部分が出てくる。その中で、例えば胃が一番よくないとか、頭の血管が破れそうとか、これは半年１年かけてゆっくり治せばいいというところもあるだろうけれども、これは今日明日にでも手術なり応急処置をしなければならぬ、そういうものなのでしょう。床にひびが入っていたり、建物が傾いていた、そんな状態のものは放置出来ない訳でしょう？そういうやり方が出来ないのかと言っている。」
須田教育次長	「現象的にひびなどが発生した場合は応急措置や対応はしますが、今の耐震については先ほどお話しましたように、こちらの方ですぐに出来るという物ではないようでありまして、診断を経て県の判定委員会を経たうえで対応しなければ、設計等についてのチェックも入りますので、そういう時間が必要というのが現在の状況であります。川内小学校につきましては、どうしても時間的に長くなると言った場合は診断はしなければならぬかなあと検討しているところであります。どうしても川内小学校が地震に耐えられないというふうな状況であれば、新しい学校が出来るまで、直根小学校に一時的に移ってもらうというような方法も一つのやり方かなと考えておりますので、もう少し御時間をいただけないでしょうか。」
議長	「矢島小学校も最優先になってる訳ですけれども、すぐには出来ないという事情があるようですので出来るだけ早い対応をお願いしたいと思います。」
B 委員	「統合になった場合バスが運行になると思うんですけれども、１年生は一人でバスに乗り降りも出来ないような子が乗るようになるだろうし、笹子の場合は各沢には３０分も入っていかねばならないような沢だから、そんな奥までバスは入ってくれるんですか？」
佐藤教育学習課長	「今の鳥海中学校の乗車場所、上野宅、皿川のそれぞれの乗り降りする場所、今の状況を考えますとそこが基本的に発着地点になるかと思えます。針水とか、そういう所までは入る事は出来ない。」
B 委員	「そうなると、親が送れば良いんだけど、送れない親だとすると、子供達が真冬にバスに乗るために４０分も５０分も歩いてこななければならない。それは検討してもらいたいと思います。今は親が勤めで早かったり、夜勤だったという事が増えているから、おじいちゃんおばあちゃんに送っていけと言ったって出来ない場合もあるだろうから、それが大きな金がかかる問題になるんじゃないかなと思います。」
佐藤教育学習	「今、笹子小学校の方もスクールバスでの送迎やっていますので、そういう事の

課長	延長という事になろうかと思いますので、特別大きく変わる事はありません。逆に川内ですと5km、6km徒歩で通学している児童もおりますので、そういう面から、スクールバスの運用面で子供の通学の負担が増すという事はありません。」
Bさん	「出来れば奥まで入って来てほしいというお願いです。」
議長	「まだ時間がありますので、事務方と保護者の皆さんとの話し合いが必要だと思いますのでご検討ください。それでは次に（２）今後の地域協議会についてに移りたいと思います。」（教育委員会事務局 退席）
清水振興課長	「先日地域協議会の正副会長会議という会議がありまして、いろんな問題がある訳ですけども、その席上において地域協議会は今後に残していこうという話し合いになったようです。委員数についても協議した方がいいのではないかとこの事になったようです。正副会長会議には鳥海地域からは会長副会長とも出席出来なかった訳ですが、そういう結論になったという報告は受けておりましたのでお知らせいたします。今年度最後の地域協議会、他の地域では既に終了しておりまして、そこで話し合われた状況（委員数）を少し説明したいと思っております。 矢島地域：現状では多すぎるのではないかと、という意見あるも具体の員数決定に至らず。 岩城地域：現状の30人 大内地域：現状の30人 東由利地域：事務局に一任。 西目地域：会長が委嘱する5人の検討委員会に一任。 由利地域：15人にしたい。
議長	「今回アンケートで10人、20人、30人という形で調査されておりますが、今日提出する方がほとんどのようでまだ結果は分からないという事です。どうですか、皆さん。」
A委員	「鳥海地域は非常に広範な地域ですので、やはり地域の代表の方々、各年代別の代表の方々、様々な職業の方々を網羅するという事になりますと、現在の30人程度は必要じゃないかなと思います。あまり人数を少なくすると、この地域協議会そのものの意味がなくなってしまう。」
議長	「今、Aさんから30人という、これは4年間の実績を踏まえた考え方だと思いますけれども。その他の皆さんはいかがでしょう。」
C委員	「人数はともかくとして、この地域協議会は非常に出席者が少ない。なぜこんなに少ないのかという事、当局ではどのように捉えているのですか。なぜ出席者が少ないのかと考えた事はありませんか。」
議長	「半分以上は来てもらいたいなといつも思っているんですけども、事務局の方で他の地域の状況と併せて感じている事などありましたらお願いします。」
清水振興課長	「他の地域の地域協議会の会議録などを見ますと、鳥海地域と同様、半分強とか半分弱、そのような出席率になっているようです。過半数に達しないと会議は成立しない事にはなっておりますが、そのような状況で半分以下でも開催し

	ているような状況です。」
C委員	「出席者が少ないという事は、日程の取り方が悪いとか、時間の取り方が悪いとか、そういう事も関連してくると私は思いますが。冬に夜からの会議なんて、誰も来ない訳ですよ。夜やれば来るだろうという考えは、私は間違いだと思ひ、そういう日程の取り方が響いていると思ひます。」
植村総合支所長	「鳥海におきましては、日中は農業とか家の仕事がある関係上、集まりにくいだろうという観点から出来るだけ集まりやすい夜を設定して皆さんにご協力を願ってきたところでありますけれども、それだけではなかろうとも考えております。事務局だけで日程を決めて進めてまいりましたけれども、他地域の一つの例を申し上げますと、30名の委員の中から幹事を5人なら5人選出して、その幹事の皆さんが日程とか、どういう案件で話し合おうとか、そういう物をまとめながら進めているという例もあります。ですから、極端に言いますと、行政の方で主導を取りすぎているのかなという考えも持っている所ですので、今後の意向については行政と、会長さんだけでなく、そういった幹事会みたいな物と一緒に考えて進めていければいいのかなと思ひている所でもあります。
C委員	「それも一つの方法でしょうし、この協議会は全て決まったものが報告されて、意見を言っても取り入れてもらえないという面もあると思ひます。決まらないうちにお話をいただければ意見もその中にくみ取っていただけるでしょうけれども、執行部ですっかり決めてしまったものであれば、よほどの事がない限りそれを覆す事は一切無いと思ひますよ。」
議長	「今の話は、我々が4年間やってきた実感である訳です。この事について皆さんからおおいに意見を出していただきたいと思ひます。」
B委員	「私もCさんが言った意見と同感です。」
D委員	「私もCさんと全く同じ意見を持っております。そのようにアンケート用紙にも記入しました。確かこの地域協議会というのは、合併に伴ってもしかすると議員が選出されないという地域があるんじゃないかと、その地域の意見をどうするのかという事から始まったものだったなと認識しておりますが、実際蓋を開けてみれば岩城町だけが地域協議会を持てる団体ではないのかなと思ひておりました。この地域協議会というものの自体が、我々の意見を反映させる所でなくて、決まった事を説明するだけというものならば、広報か何かに載せてもらえばいい事であって、こうやって任命をして会議を開く必要は何もない。この協議会が無くても、いろんな団体でいろんな事を話し合っていますので、それだけで十分でないのかなと、そういう感じを持っています。従いまして、地域協議会は継続という方向であるようですけれども、私個人の意見としましては、全く必要ない。地元から議員も選出されておりますし、要望は届くものと思ひております。」
議長	「ある意味では存在の意味がないという事にも受け取れる訳ですけども、その辺については佐々木理事さんが毎回いらしておりますので、地域協議会の意見を中央にどう伝えられて、それがどうなっているのかなという事も含めてお話いただければと思ひます。」
佐々木理事	「必要な事についてはその都度、担当部長、副市長に伝えております。皆さんの意見が耳に入っているという事は私が申し上げますので、ご意見が反映出来

るか出来ないかという事についてですけれども、意見が反映出来る要素は法律で担保されてますから大丈夫だと思います。それから、先ほどありました決まってしまった事を出してもというご意見、ごもっともな話だと思います。これまで4年間どうだったんだという話になりますと、確かにある程度決まった物をお示しして説明し、それで良しとしたと、果たしてそれでいいのかと言うと、私もどうなのかなという感じはしております。4年経って、5年目からこの地域自治区の中の地域協議会ですから、当然この地域の課題については市と相談していくようなシステムがどうしても必要でないかなと考えております。他の地域も大体同じような悩みを抱えておりますので、全市的に取り組んでいかなきゃいけないのかなと考えております。皆さんからも忌憚のないご意見を拝聴したいと思います。よろしくお願いいたします。」

C 委員

「この地域協議会も、うまくと言いますか目的に沿ってやれば非常に効果もあるし、意味も深いと思いますが、資料の中に地域協議会の権限の（3）にうたわれている文章にもありますように、これからそれをある程度取り入れて、市政に活かしてもらえるのであれば非常に効果があるんじゃないかと思います。」

議長

「本荘は4つの専門部会、矢島と大内それぞれ2つずつ持っている。いずれ地域協議会の在り方については他の地域でもいろいろ問題があるように聞いております。鳥海の場合は平成18年度、まちづくり計画の見直しという事で、これは一方的に説明されたような感じがしました。しかし、その中で鳥海地域の総合ミュージアム計画につきましては、時間をかけていろんな形でお話をし、それをまとめて市長に提言しております。更に19年度においては、いわゆる機構改革という事で、いきなり出張所廃止、スキー場廃止と言われて、これは地域協議会では真っ向から反対しながら全体の意見として、これも市長に出しております。従って、今までの存在が全然意味が無かったというふうにはならない訳ですけれども、これから今までの反省を踏まえて、来年度以降意義のあるものにしていくとすれば、私個人的には今まで年6回くらいやったりしましたけれども、回数は4回でもいいから、とにかく出席出来る日程づくりが必要だなと思っています。それからテーマを一つ、みんなで割り振りして、4つのグループに分けて、毎回各グループが今回はこのような事で話し合いしたいなという事を提案して通知するというのも一つの方法だろうし。今までは報告という形でしたが、小学校の統廃合はこの地域にとって大きな問題になると思います。これについては、地域協議会でただ黙ってみている訳にはいけないというように思うので、今後の非常に大きな課題にもなると思います。そういう事を考えますと、何人かからご意見いただきましたが、出席の委員の皆さんから今までの4年間を総括して、今後の在り方、こういう方向がいいんじゃないかと、一言でもいいのでお願い出来ればと思います。」

E 委員

「この地域協議会で話題を取り上げて、行政から配慮してもらったというのは、やはりスキー場廃止の問題や出張所廃止の問題の願いを聞いてもらって、続行してもらっている訳ですけれども、一般的な角度から考えれば、先ほどDさんからお話がありましたけれども、ただ決まった事を報告するような会だとすれば、私も必要ないように感じている訳です。この地域協議会というのは、地域の問題を取り上げて、本庁に提出して、出来るものであれば早期に実施してもらおうと、そういう角度で物事を進めていければ、それが地域協議会としての本来の姿じゃないかなと思います。ただ本庁から来て「今日はこれとこれについて説明します」と説明を受けて、それについての意見を言ったって、もう決まっている事を報告する会にすぎない。それであれば、意味がないと思ってます。今までの形で、今後更に何年か続行するというのであれば、必要ないので

はないかと思う。ただし、前向きに考えて、委員の皆さんが鳥海の事を話し合
って、こういう事をやろうと、こういう事を取り上げてもらおうと、そういう
形がある程度あって望ましいのではないかなと思う。従って、この地域協議会
が今後も続く事になるとすれば、鳥海独自の考え方も行政に反映させてもら
うという方向に持って行ってもらいたいと要望します。」

F 委員

「皆さんからの意見のように、行政からの報告会のようなであったという意見に
共感しています。それだけの協議会であれば意味がなかったのではないかなと
いう面もありますが、私は継続していく方向で考えていった方がいいと思いま
す。行政からの報告を受けるだけでなく、先ほど話されていたように、代表
とか各グループを作って、この次はこういう案件で考えましょうというのを
出して、それに伴って課長さん方に来てもらって、こちらの意見を出して、市政
に反映させてもらうという地域協議会であれば、これからは継続してもらいた
いと思います。委員の中では私が最年少だと思いますので、私達の年代で考
えている事なども意見として持てきたいなというのと、私はPTAの副会長を
務めているんですけども、学校の統廃合についてもかなり問題視されていて、
PTAの中でも話題になっておりますので、そういった意見も保護者の方から
聞いて地域協議会に持ってきて、教育委員会に反映させていってほしいと思
います。」

G委員

「任命していただいたので出来るだけ参加はさせていただきましたが、発表し
たりするのは重荷でしたので、自分から進んで地域のためにやってくれる人
を選んでいただきたいと思います。そうすれば出席者も増えるんじゃないかな
と思います。」

B 委員

「協議会については先ほど色々話をさせてもらったから、この内容については
いいですけども。今、釣りキチ三平で法体の滝が一躍有名になっております
が、監督も賞をもらってPR等やっております。湯沢市に行くと、ほとんどの
商品に釣りキチ三平のイラストが貼られております。由利本荘市も、せっかく
釣りキチ三平が来て法体の滝のPRもしているんだから、それを活かしてほし
いと思います。」

Hさん

「私もせっかくの機会をいかす事が出来ませんでした。地域協議会の委員とし
て、『おめは何やってんなよ?』って家族だったり、地域の方から聞かれたん
ですけども、それに対して答弁出来ない自分が少し情けないなあとという気が
しています。今日は学校の統廃合の問題について詳しく伺う事が出来て、私は
PTAの方から任命されたのではないかなあという事で、委員として勉強させ
ていただきました。最後に自分なりに学校の事を聞けてよかったかなあと思っ
ております。佐藤つぐみさんが先ほどおっしゃってございましたけれども、委員
の公募もいい案ではないかなと思いました。それなりに意見を持っている方とい
うのもいると思うので、そういう機会があればと思っている方もいるのではな
いかなと思いました。4年間ありがとうございました。」

I さん

「先ほどCさん、Dさん、Eさんの言った事に結論はなってしまう訳ですが、
コースは決まっています、ただ報告するというような地域協議会だったのではな
いかなあと思っております。先ほどもAさんが耐震関係の事を質問した時に、も
う石川さんは統合の話をしている訳ですよ。コースは決まっています、質問には
答えられないような状態に見受けられました。先ほど会長も学校の統合が重要視
されてくるという事をおっしゃいましたけれども、その前に協議会の方で議論

するとかさせてもらいたかったと思っております。それと、話は2年前くらいに遡る訳ですが、合併した後、地域の声を直接市長に届けるという区長制をとりました。それが2年くらいで無くなってしまったと。地域の声を市長に届けられる区長が今後も必要なのかどうかという事も地域協議会で協議させてもらいたかった訳です。もうコースは決まってて、お知らせのような地域協議会だと思ってました。これからはスタートから協議して、意見を上に上げていくような、今までと違った形でやってもらえれば、非常に意味のある地域協議会になるんじゃないかと思います。」

A 委員

「私達は何らかの形で団体とか地域とか、それなりに代表した立場じゃないかなと思っての訳です。だから自分が代表している所以外の事についても発言申し上げておりますし、私は農家とか農協の組合員を代表している立場で発言をさせてもらっております。ただ私がびっくりした事は、私がここで発言した事が議事録になってインターネットで流れる。私がここでカントリーエレベーター作ってほしい、行政に協力してほしいと言ったら、これが理事会で取り上げられて鳥海にカントリーエレベータを作るなら、矢島も忘れないで欲しいと言われたんです。鳥海でしゃべった事がなんで矢島の人達が敏感に聞きつけて発言される。これはやはり鳥海で発言した事もそういう形で流れる。そういった事も考えながら、鳥海は鳥海の要望を出せば、それに興味を持って見てる人もあるんだなと。おかげさまでと言いますか、カントリーについては振興計画にあがりまして、まだ将来的に鳥海に建つか矢島に建つか、そういった話はしておりませんけれども、農協でも計画にあがってきたという事でありますので、やはり各会を代表された方々、こういった場で自分の立場で機会を見つけて積極的に出していけば、それなりに回りの地域の方々にも興味を持たれて、市政にも反映されていくんだと、私自身はそう考えています。後は皆さん方も活発にいろんな角度から発言された方がよろしいんじゃないかなと思います。」

J 委員

「私は委員として峠サミットにも参加させてもらって、母さん達が地元で作ったものを道の駅でもどこでもPRして、一生懸命やっている姿にとっても感心いたしました。釣りキチ三平も、この間見させていただきました。その時も地元のPRがすごかったなという事で、せっかくこちらで撮影されたので地元のPRをやってもらいたいなと思いました。私達も一生懸命頑張っていきたいと思いますので、その辺もよろしくお願いします。」

K 委員

「私もこの会に入ってから4年近くになりましたが、半分くらいしか出席出来なかったなと申し訳なかったなと思います。アンケートにも書きましたけれども、Cさんが申されたように報告会のような事を書きました。どういうふうになればいいのかなという事で、我々が身近に感じているような地域の悩みとか、そういった話でも皆さんと色々話しあえればなという事を書かせていただきました。それから若い人をもっと増やして、どういうふうな考えを持っているのかなとか、そういった話も取り入れながら、もちろん市に届くような形でなければダメなんですけれども。」

L 委員

「私は仕事を持っていますので、日中の会議というのは大変苦労している。しかし、代表ですから行かなければならないという考えでおりましたが、なかなか行けなくて申し訳なく思っております。実は私も公募に大賛成です。そういった方であれば、時間もあるだろうし。大変お世話になりました。」

M 委員

「地域協議会は、当初考えていたような会議ではなく、想定外のような感じがいたしました。しかし、委員になれと言われて引き受けた以上は、出来るだけ

会議に出席するように務めまして、それがまた自分の勉強になるような気がして、私はこの４年間勉強させていただき、ありがとうございました。」

N 委員

「皆さん、決まった事を報告と言いますが、私もそう思うんです。いくら意見を言えと言ったって、決まった事に対して意見と言ったって意味が無いんですよ。委員３０人と言っても、出席者が少なければなかなか分科会を作ると言っても大変なんです。皆さんの協議会ではどのような意見がありますかという事を出させて議論させて、その事に基づいて説明を伺う。そういった形で進めていったほうが、むしろいい意見が出てくると思うんです。ただ、そうすると時間がかかる訳で、いつも２～３時間で終わろうとしているんですよ。本当は重要な案件だとすれば、２～３時間で終われるようなものじゃないと思うんです。しかし、出席する方には仕事を持っている人もいるだろうし難しいとは思いますが、その辺も考えながらでないと本当に望んでいる意見を申し述べる事は出来ないんじゃないかと思います。出来ればそういう事が４回のうち１回でも２回でもあった方がいいと思います。」

O 委員

「個人的に思う事は、毎年毎年伝承館の予算が削られてしまって、私達メンバーが７人いるんですけども、刃物が無ければ自分達の売上げで出してみたり、せめて刃物を研ぐくらいの予算はつけてほしい。そう思っております。どうかよろしくお願いします。」

大友副会長

「私が感じた事は、この地域協議会を４年で終わるというのは不安が残る感じがします。今、本荘地域は工事もたくさんやっていて活気がある。地域協議会も４年間やってきて、いろんな問題が提示されて、報告を受けて、皆さんそれぞれ意見を言ったと思いますけれども、ある程度反映されてきたと思いますので、地域協議会はこのまま継続してやってほしいなというふうに思います。当初合併した時は対等合併だったんですけども、今はもう対等合併という気はしないんですよ。周辺がさびれる一方な感じがしますので、私達も含めて地域の皆さんが声を出していかなければならないのかなという気がいたします。今日は鳥海の議員さんも２名来ておりますし、途中から議員さんも参加するようになったんですけども、議会ではこういうふうな話をしているだとか、こういう経過であるよという、議員活動も聞ければよかったかなと思っております。人数は３０人は多いかなという感じがするので２０人くらいがいいと考えておりますけれども、継続してほしいなと思います。」

議長

「皆さんのご意見を聞いておりますと、私自身も反省するところがありまして、確かに前半の方は、計画がこうでこうしますといった事で短時間で説明を受けて、住民の意見も聞きましたという方向で進んでいくんじゃないかと心配していました。由利橋の架け替えについても短時間で説明して、説明責任を果たしましたよという感じを持たれておりのが、私も歯がゆさを感じております。やはり合併後の検証というのも含めて、この後も地域協議会が必要でないかなと。委員の公募という事もあり、いろんなやり方があると思いますけれども、地域協議会の委員は誰がなってるの？と言われても、１回も広報に載った事もないし、誰も現実に分かってない訳です。これでは住民とつながらない。それぞれの地域でミニ広報を出している所もあるようですが、その予算もない。これは改善してもらわなければならないなと思っております。この後につきましては、大きな問題がたくさんある。特に小学校の問題は、これは一つの方角性が出されましたけれども、これは決定ではないので、地域協議会の皆さんにも相談すべきだろうと思っております。回数を多くするよりも、短い時間でも濃い内容になるようにすべきだろうと思っております。観光の面でも、市では由利本荘市の観

	光は鳥海にあると言うが、それが何だかという事はなかなか出してくれない。釣りキチ三平の件も、ただ黙って見てる訳にはいかないし、地域協議会にも大きな責任があるように思いますので、市当局も含めてこの後大きな課題になると思います。今やらなければ遅くなりますので、この事も大事な事だと思っています。合併して４年経ちましたが、合併前の状況と比較すると今の状況はどうなってるのかと、これを検証すると言うか、特に鳥海地域についての検証が必要だろうと思います。それがこの後のテーマになるんじゃないかなと私自身思っております。オコジョランドスキー場のスキー大会に行きましたら、市ではケーブルテレビと騒ぎながらも、そこはテレビが無いんです。子供達が食事をするにしても、テレビの無い所でモクモクと食べている。こういう事は、この後の課題としておおいに発言してほしいと思っております。皆さんが発言されました事を、佐々木理事さん或いは総合支所長さん、感想を述べていただければと思います。」
佐々木理事	「たくさんのご意見いただき、ありがとうございました。一つ一つその通りだと思っている次第であります。特に地域協議会って何やってるのだとか、広報が必要でないかという事は鳥海地域だけでなく、他の地域でもそういう話がありますので色々相談させていただきたいと思っております。鳥海地域の課題、小学校だとか、合併後の検証だとか、そういう事柄についても、今後勉強させていただいて、皆様と相談させていただくようにお願いしたいと思っております。まずは何よりも今日は皆様方から一言ずつお話いただいたという事が、初めてだと思っておりますので大変ありがたく思っております。今後も必要な事について伝えていきたいと思っております。ありがとうございました。」
植村総合支所長	「貴重なご意見ありがとうございます。先ほども申しましたけれども、やはり地域協議会というのは、地域の問題をどう取り上げて、どう反映していくかという所が一番大きい所だろうというふうに思います。しかし、執行部の方で説明しなければならぬ事っていうのもある訳で、市の方針として理解していただかなければならぬ、そういう事案もあります。ただ、地域の個々の問題はお互いに出しながら、執行部で説明して質問をもらうという事ではなくて、お互いに意見を考えながら出さうという事がこれからの地域協議会に必要な事なのかなと考えさせられました。今日のご意見を十分に参考にさせていただきたいと思っております。」
議長	「それでは、次に（３）その他に移りたいと思います。説明をお願いします。」
総合支所各課 振興課 〃 振興課・福祉保健課 総合支所各課	（平成２１年度市予算の概要について説明） （地域活性化・生活対策臨時交付金事業について説明） （定住自立圏構想について説明） （定額給付金給付事業・子育て応援特別手当について説明） （各課連絡事項）
議長	「ただいま資料に基づいた説明がありましたけれども、質問事項がありましたらお願いします。」
D委員	「定住自立圏構想についてですが、この件について地域懇談会をやられた訳ですが、１４日の日付で通知が出されて１８日に懇談会開催。こんな重要な問題をこんな短期間の急ぎ足のチラシで、どのくらい人数でやられたのか非常に疑問に思います。今日は会場で出された意見をまとめた資料が配られておりますが、定住自立圏構想というのは、地方圏から大都市圏に人が流れないようにと

いう大きな発想の下でおきてきたものだと思います。従って、こういう地域であれば定住させるためのミニタウン化という事で、別の言葉で進められてきたと認識しておりますが、それは中心地を活性化すると共に周りの地域も活性化させないと、この定住自立圏構想というのは実現しないものだと思っております。そういう場合に、限界集落、準限界集落という言葉を目にたこが出来くくらい聞いておりますし、我々も実感しているところでありますけれども、こういう事に関しての方策と言いますか、考え方と言いますか、どのようにお考えでしょうか。」

清水振興課長

「日程的な事ですが、支所から上に上げる時期が非常に早まってしまい、10日間くらいしか期間がなかった訳です。その間に日曜日は2日間くらいしかなく、各集落を回りなさいと言う指示があったのですが、それは不可能な訳で、旧村単位で開催させていただきました。また、夜は出席するのも大変だという事で、3箇所を同じ日に回って、どこの会場で参加してもいいですよという事で通知しました。その通知ですけれども、広報の配布に併せた関係で通知してから短期間で開催という事になってしまいました。広報と別に行政協力員さんに通知を全戸配布してもらうのは大変な事ですし、広報の配布と併せた訳ですが、日程的に時間がなくご迷惑をおかけしましたが、そういった事情でありましたので、ご了承ください。」

D委員

「日程的な事は分かりました。それ以外の部分は？」

清水振興課長

「各課から要望があった事を本庁に伝えております。先ほども少し説明しましたけれども、由利牛の振興、除雪機械購入の補助、道の駅サミットの開催、集落支援員の配置をしてくださいなど、本庁に出しております。そして各支所単位で問題が諸々出されているはずですので、それを本庁各課で纏めている段階です。もっと具体的な事業にして、来年度以降になると思いますが実施に向けて検討しております。予算的にも、全部やれば何十億円という単位で支所から出ているんだそうです。平成20年度で1億7千万円、今後4年間で中心市には4千万円、周辺地には1千万円という事で、予算的にもかなり制約がありますので、出されたメニューを全てこなすのは非常に難しいのかなという事で、本庁で調整を図っている段階です。」

D委員

「この構想があってもなくても、広域の合併をした以上は中心地の発展はもちろんだけれども、周りの発展も併せて考えていかなければいけない事だと思います。ところが、合併してから我々は全く合併したメリットを感じない訳です。それはなぜかと言うと、どこに行っても活気が無くなっている。それをどうやって中心地以外の地域を活性化させるか、実際には限界集落が発生していると思うんですが、私も自分のところを計算してみますと7年くらいで限界集落に入るんじゃないかなという気持ちがしております。ですから、そういう実態を市で把握して、早めに手を打っていかないと本当に人の住まない集落になってしまうんじゃないかという心配がある訳です。ですから、この定住自立圏構想、これを一つのきっかけとして行政でも真剣に考えてほしいなと、そういう気持ちを持っております。だから、どうやったらそれが解消出来るか、そういう真の意味の行政を、一つのリーダーシップを発揮してもらいたいなと思います。我々住民ではもうどうしようもないなという深刻さもある訳ですけれども、伝わらないのかなと感じます。だかが4日くらいの間で集まれと言われても、出来ないんじゃないですか。そこのところが落ちたんじゃないかなという事で、非常に心苦しいというか、非常に寂しい思いをしていたところです。具体的にもう少し考えてほしいなと思いますので、よろしくお願いします。」

L 委員	「私も定住自立圏構想という事で紫水館に参りました。チラシは私もきちんと配布しておりますし、それよりも定住自立圏構想というものに対する関心が無いから懇談会に来なかったんじゃないかなと思います。今日はこの後反省会があるので、提鍋から歩いて来ました。ところが、全く人がいない。久保の加賀医院まで来たらようやく一人おりました。定住自立圏構想というのは、その地域に住んでもらうための一つの政策であって、その一つには都市計画に基づいた周辺地域がより有効に活用出来る場所を提供するというのも一つの方法だだと思いますので、周辺地域も併用して進めてもらえればいいかなと思う訳です。」
A 委員	「定住自立圏構想の中に医療介護という分野がありますが、ここには具体的な話は出ていない。先日組合病院の運営協議会がありまして、私共の懸案になっておりました遠隔地の患者が通院する場合非常に不利だという事があります。これはバスも廃止になりまして、非常に交通の便が悪い。また診療の待ち時間が極端に長くなってしまう。この格差を解消するために、各地域にも診察券を確保（受付）する場を作っていただきたいという事を3～4年前に申し上げました。この間の運営協議会で、いわゆる定住自立圏構想とも関連しながら、鳥海のように40kmも50kmもある所には診察券を交付（受付）できる所を設置したいと事務長から報告もありましたので、これは松田会長も一緒に行って話を聞いております。その点もよろしく願いたいと思います。」
議長	「ご意見まだまだあるでしょうが、この後反省会も予定しておりますので、この辺で打ち切りたいと思いますがいかがでしょうか。」 （了解）
松田会長	「協議は終了した訳ですが、今日は皆さんありがとうございました。これで任期が終わる訳ですが、4年間本当にご苦労さまでした。」
清水振興課長	「鳥海総合支所長より締めあいさつを申し上げます。」
植村総合支所長	「長時間に亘りご協議いただき、ありがとうございました。また、委員の皆さん全員から貴重なご意見を賜った事に対しても、厚く御礼申し上げます。合併から今日までの4年間、地域協議会の委員として地域のためにご尽力いただいたことに対し重ねて感謝申し上げます。今後の協議会の持ち方につきましては、今日のご意見を十分に考慮して検討してまいりたいと思っております。市の発展計画を基軸とした定住自立圏構想、そして学校環境適正化計画等の色々な課題もありますので今後とも皆さんから、また地元議員のお二人からご指導とご協力を賜りながら進めてまいりたいと考えておりますので、よろしくお願い申し上げます。」
清水振興課長	「長時間に亘り、大変ご苦労さまでした。本日はこの後、4年間の総合反省会を予定しておりますので、そちらにも多数のご参加をお願いいたします。 これもちまして、第4回鳥海地域協議会を閉じます。」 閉会 午後5時40分